

V 学生支援

1. 【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者に対し、当該短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付。

平成 17 年度には、入学志願者に対して本学を紹介するものとして、大学案内「じぶん、自信。」を 5 月に刊行した。大学案内「じぶん、自信。」は、各学科・専攻の卒業生、在学生の写真と体験談を通して、本学での学びの内容、取得できる資格、卒業後の進路などについて具体的にイメージさせることを目的としている。9 月には、入学志願者が、将来の進路を念頭においた進学先の選択ができるように、「仁愛女子短期大学で取得できる主な資格カタログ」を刊行し、各学科・専攻で取得できる主な資格と専門分野への就職状況を掲載した。

高校教員や地域に対して広く本学を紹介するものとして「大学要覧」を 5 月に刊行した（入学志願者には配布していない）。「大学要覧」は各学科・専攻の開講科目や就職状況を紹介するとともに、建学の精神や沿革などを掲載して、本学の概要を紹介した。

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO 入試など）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物があれば参考資料として準備。

入学者選抜方法別の概要を掲載した「入試ガイド」を、「じぶん、自信。」とあわせて、5 月に発行した。「入試ガイド」には、入試概要のほか、昨年度の入試結果や入試問題等を掲載し、受験に関する情報の提供を行った。9 月には、願書を添付した「募集要項」を発行した。また、県内高等学校から依頼の本学の分野別専門課程についての「出前授業」で進路説明を兼ねて入学方法を説明している。

なお、音楽学科では、AO 入試の実施等、独自の学生募集対策を行っている。

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述。

入学志願者に対する広報は、学生部内の入試広報室が担当している。入試広報室は、教員 1 名、職員 2 名の計 3 名で構成されている。入試事務は、学生部長を事務局長とする入試事務局が担当している。入試事務局員は、学内事務部門を中心に毎年度編成している。入学志願者や、受験生等からの問い合わせには、入試広報室が窓口となって行っている。最近では、E-mail による問い合わせ件数も増加している。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者（特に責任者を設けていない場合は事務局長等の事務の責任者）は現状をどのように受け止めているかを記述。（入学願書等を参考資料として準備）。

①推薦入試

本学では、入学定員の 8 割を推薦入試で募集している。本学が平成 18 年度入試で実施した推薦入試は以下のとおりである。本学で学びたいという意欲ある人を募集することを目的としているため、全推薦入試とも専願としている。

<一般推薦入試>

評定平均値が 3.2 以上の現役または 1 浪までの女子を対象に実施した。選考は、書類審査・適性検査・個人面接（5 分）によって行った。

<特別推薦入試>

本学が指定した高等学校の専門学科および総合学科の出身で、高校 3 年間を通じ人格・特技・行動・勉学の面で優れた成果をあげた人を対象として実施している。選考は、書類審査・作文（800 字・60 分）・個人面接（10 分）によって行った。

<県外指定校推薦入試>

県外の高校に在籍する、本学で学びたいという意欲のある者を対象に実施した。選考方法は特別推薦入試と同じである。

<併設校推薦入試>

併設校である仁愛女子高等学校の出身者を対象に実施している。募集人員は事前に高等学校と協議して決定し、選考は書類審査と個人面接（5 分）によって行った。

②AO 入試

音楽学科において明確な目的意識を持って学ぼうとする意欲あふれる人を対象に、その能力の発見と資質の向上を目的として AO 入試を実施した。出願までに本学教員と 2 回以上の面談を行うために、本人の学習意欲や能力・個性、実技進捗について十分に確認することができるというメリットがある。2 回の面談の結果、本学が出願資格の認定を行い、書類審査により選考を行った。

③一般入試 A・B 日程

生活科学学科・幼児教育学科は国語・英語・数学の 3 科目より 1 科目を出願時に選択する学力検査および書類審査、音楽学科は音楽実技検査および書類審査で選考を行った。

④その他の入試（社会人・外国人・専攻科）

<社会人入試>

生涯教育の一環として社会的経験を有し、専門分野の知識や技能等の修得をめざす女性に対し、高等教育を受ける機会を提供することを目的として、11 月と 1 月の 2 回実施した。対象は入学時 22 歳以上で、大学入学資格を有する者である。募集人員は若干名で選考は書類審査・作文・個人面接・音楽実技検査(音楽学科のみ)によって行った。

<外国人入試>

国際化時代の中で、本学の教育理念である人間教育と専門教育を、広く世界の人たちに提供し、諸外国との相互交流・相互理解に貢献することを目的として実施している（平成 18 年度入試の受験者なし）。対象は外国において 12 年間以上の学校教育を受けた者である。選考は、日本語能力試験、書類審査、面接、音楽実技検査（音楽学科のみ）によって行う。

<専攻科入試>

●音楽専攻(2 年課程)

短期大学卒業以上の学歴を有する者を対象に実施している。選考は、音楽実技検査、書

書類審査、小論文、面接により行った。

●食物栄養専攻(2年課程)

平成3年4月から設置してきた1年課程を廃止し、平成18年4月より2年課程を開設する。対象は、栄養士養成施設として認可を受けた短期大学・専門学校を卒業した女子および平成18年3月卒業見込の女子で、栄養士免許を取得した者および取得見込の者である。入試は12月、1月、3月の3回実施したが、12月と1月は本学食物栄養専攻卒業見込者を対象として、書類審査と個人面接(10分)で選考を行い、3月は学外者を対象として、書類審査と小論文(800字・60分)、個人面接(10分)で行った。

入試事務局では入学試験の公正な実施に留意し、ミスがないように十分に点検を行いながら事務処理を行っている。願書の受付は、複数人で行い、受付後には必ず点検作業を行った。入学試験は、面接、試験監督、誘導の担当者が共通の理解をもち円滑に実施できるように打ち合わせを行ったうえで実施した。合否の判定は、書類審査および適性検査や学力試験、面接、作文の結果をもとに判定委員会により原案を作成し、全教員による判定教授会で承認を得て決定した。

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述。なおそのための印刷物等があれば参考資料として準備。

合格者に対して、選考結果通知の際に、入試広報室が制作している「ウェルカムレター」を同封して、入学後の学生生活や、入学までにしておくことと役立つことなどを紹介した。

(6) 入学後(入学直前を含む)、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示すこと。

①新入生・保護者懇談会

入学式終了後、新入生および保護者の方に学科毎に集まっていただき、約40～50分程度の懇談会を実施した。本学の教育方針や支援体制など、入学にあたって理解していただきたいことなどを説明している。新入生に対しては、詳細な説明が、翌日から2日間にわたって開催される新入生オリエンテーションにて行われるが、保護者の方にも、本学についておおまかな理解をしていただきたく実施している。

<主に説明される内容>

本学の教育方針／本学の現状と展望／授業科目と授業計画／単位修得と成績評価／学生生活について／進路(就職)について／学生部と事務局の業務／平成17年度の授業日程

②新入生オリエンテーション

入学式の翌日、翌々日の2日間にわたり開催した。まずは、全学科に共通する内容について、学生部が中心となってガイダンスを行い、その後、各学科単位でのガイダンスへと流れるようにしている。各学科のガイダンスも、最初に学科全体で集まり、学科共通の内容の説明から始め、その後、専攻やコース、クラス別に集まることで、徐々に、詳細な説

明をしたり、個別な対応をしたりするようにしている。

＜新入生オリエンテーションの主な内容＞

(ア) 学生部ガイダンス

- ・本学独自の行事（AH、朝の礼拝など）の説明
- ・受講登録についての説明
- ・時間割表の見方についての説明
- ・学生生活規程等についての説明 など

(イ) 学科ガイダンス

(ウ) 学生証写真撮影

(エ) 教科書販売

2. 【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示すこと。

入学時・各学期開始時に、学科全体でのガイダンスの他に専攻・コース別にクラスアドバイザーがクラス学生の学習支援にあたりきめ細かい履修指導を行っている。「時間割表」・『講義概要』・『学生のしおり』等をもとに受講登録、免許・資格等の説明を行い、登録ミスによる卒業延期及び免許がとれないということにならないよう指導している。1年後期以降は、「成績一覧表」及び「単位取得状況確認表」を配布し、成績・通算取得単位数の確認をさせ、単位数の少ない者・成績不振者に対しては特に個別指導等実施している。その後、個人による登録期間終了後、一斉にミーティングアワー(MH)を開き、実際登録した登録一覧表をクラスアドバイザーより配布し、学生に確認作業をさせている。この時にも改めて、学習等の指導を行わない学生のうっかり登録ミスを防止している。

また、学生部窓口においても、担当職員が常時学生の相談に応じている。全学挙げてのきめ細かい履修指導により、登録ミスによる卒業延期者及び免許資格が取れなかった者はいなかった。

(2) 学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）を発行していれば参考資料として準備。

学習や科目選択のための印刷物として、『講義概要』を発行し、オリエンテーション等で学生に説明している。

(3) 基礎学力が不足している学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述。

基礎学力が不足している学生に対する補習授業は実施していない。しかし、入学生の質的多様化に応じて、学生としての基本的態度、人間関係におけるコミュニケーション手法について具体的に指導する科目として「教養基礎演習」を平成 15 年度から教養科目として開設している。なお、音楽学科では、多様な入試制で入学する学生の音楽基礎力の不足を補うために、授業アシスタントによる「プレ視唱」等の授業前補習指導を行って、「ソルフェージュⅠ」教科における習熟度別授業につなげている。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述。

学科会議・専攻会議・アドバイザー会議等で情報交換を行い、問題のある学生にはクラスアドバイザーが指導助言に当たっている。また、学生相談室・保健室が連携を取って悩み等の支援に当たっている。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行ってれば、記述。

生活科学学科では、生活環境専攻、生活情報専攻など IT 教育に対応してパソコンを利用する各授業において、パソコンの取り扱いに優れた学生には進度の遅い学生に対する学習支援をすることで自身の理解度が深まることを自覚させ、互いに助け合いながらともに学んでいくよう担当教員も指導している。このことと関連して食物栄養専攻、調理科学専攻では、調理実習の技術の向上を目的に 2 回生が 1 回生の模範となる技術指導を個別に両者の空き時間を利用して行っている。また、資格試験等でグレードのあるものについては、科目によって担当教員が優秀学生に対し授業時間外に個別に指導を行っている。

幼児教育学科の音楽「器楽Ⅰ・Ⅱ」についてはピアノ実技修得度に応じて、短期間で実力が身につくようにグレードに分けて指導している。

音楽学科では、併設校音楽科や他校の芸術コース出身生に多く見られる、音楽基礎力の高い学生に対して、より高度な音楽力を養成するために、習熟度別授業体制を実施して対応している。

3. 【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示すこと。

①学生部

学生にかかわるさまざまな業務を担う組織として学生部がある。学生部は 3 課 1 室(教務課・学生生活課・就職指導課・入試広報室) から構成されている。常勤のスタッフとしては、平成 17 年度は教員 5 名、職員 11 名(内 2 名はパート職員・派遣職員) の計 16 名が携わっている。学生生活の支援については主として学生生活課が中心となっているが、その学生生活課には専門性の必要からさらに別室として学生相談室・保健室が設置されている。

②クラスアドバイザー制

各学科・専攻・コース毎にクラスを構成し(人数の多い学科・コース等は複数のクラスを構成)、学生はそれぞれのクラスに所属する。各クラスには、クラスアドバイザーの教員が配置され、クラスアドバイザーが、クラス所属の学生の学習、生活、進路の支援に当たっている。

③学生指導委員会

各学科・事務局からの選出委員と学生生活課長で構成され、学生の厚生補導等の問題について話し合う。平成 17 年度は、計 5 回開催され、主として、冊子「充実した学生生活を送るために」の内容検討を行った。

(2) 当該短期大学のクラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述。

①サークル活動の状況

平成 17 年度は 26 のサークルに 374 人が所属し活動した。サークル加入率は 41.7% であり、ほぼ 3 人に 1 人の学生がサークルに加入していることになる。それぞれのサークルは原則として、決められた日に決められた場所で活動を行っている。

〔平成 17 年度活動サークル一覧〕

絵本、折り紙研究会、華道(池坊)、茶道、ボランティア、献血推進、栄養指導研究、食物研究、パソコン、ハンドメイド、ダンス、テニス、バスケットボール、バドミントン、バレーボール、ハンドボール、卓球、陸上、ソフトテニス、軽音楽部、演劇、現代書道文化研究会、弓道、ユネスコ、美術サークル、映像研究サークル

なお、体育系サークルのうち、テニス、バスケットボール、バドミントン、バレーボール、卓球、ソフトテニスの 6 サークルについては、北陸三県私立短期大学体育大会に参加している。

②サークル活動の指導および支援体制

各サークルには顧問の教職員が 1 名ずつ決められており、いつでも学生の相談に応じられる体制になっている。また、学生部の窓口においても、担当職員が常時、学生の相談に応じている。年度末には、次年度のサークル長を集めたリーダー研修会を学生部の主催で開催している。その際に、様々な書類手続きや予算申請など、活動に当たっての注意事項などを説明している。

サークル活動を実施していくうえで経済的な支援は重要であり、学生会から割り当てられるサークル補助費とは別に、幾つかの経済的な支援をしている。

③学生会の現状

学生会は、会長(2 回生)、副会長(1 回生)、書記、厚生、会計(それぞれ 1, 2 回生 1 名)の合計 8 名の役員から成り立っている。役員は、立候補制により、全学生の投票により選ばれる。選挙活動は各クラス代表者で構成された選挙管理委員会が行う。

④学生が主体となる大学行事

<開学記念ボランティア>

例年、本学の AH の時間を利用し、学生会が主体となって、学内および大学周辺の地域のゴミ拾い活動を実施している。平成 17 年度も、平成 17 年 5 月 18 日(水)に実施すべく、近隣の町内会に挨拶に回るなど準備を進めてきたが、当日が雨天であったため、やむなく中止となった。

<仁短祭(大学祭) >

平成 17 年 10 月 15 日(土)、本学を会場として『PRIDE 女祭り 2005』のテーマのもと、学生会が主体となって大学祭が開催された。

<コンサート>

例年、仁短祭(大学祭)の後夜祭という形で、コンサートを開いている。平成 17 年度は平成 17 年 10 月 14 日(金)、福井フェニックスプラザを会場として前夜祭という形で「ロ

ードオブメジャー」のコンサートが開催された。

<卒業パーティー>

平成 18 年 3 月 15 日(水)、卒業式に引き続き、学生会が主催する形で卒業パーティーが開催された。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述。なお訪問調査の際にそれらを案内。

学生厚生施設として、以下のような施設がある。

①学生ホール（116 席）

学生が自由にくつろぐスペースとして学生ホールがある。また、調理実習等の授業の際に用いられる試食室(106 席)が、授業で使用されないときには学生が自由にくつろぐことができるようになっている。

②サークル室

文化系サークル・体育系サークルのためにそれぞれ 1 室ずつ、ミーティングなどが行える部屋が設けられている。

③学生食堂（168 席）

業者に委託するかたちで学生食堂を運営している。また、営業時間以外も、座席は学生に自由開放し、休憩のためのスペースとして利用している。

④売店

学生ホールに隣接する形で、委託業者によって売店が営業されている。

⑤自動販売機コーナー

学生ホールや学生食堂には、飲料の自動販売機コーナーを設け、いつでも学生が購入できるようになっている。

⑥銀行 ATM コーナー

福井銀行の ATM が学生ホールに設置されている。

⑦保健室

保健師資格をもつ保健主事が常駐し、学内での病気や怪我の応急処置に対応できるようにしている。また、体調不良者が一時的に休養できるよう、ベッドを 2 台設置している。

(4) 当該短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場、駐車場の設置等）の概要を示すこと。

①自動車通学および駐車場

自家用車による通学を希望する学生には、一定の手続きをとることで学内の学生駐車場の利用を許可している。学生用駐車場の定員数は 647 台であり、総学生の約 3 分の 2 のものが利用できる体制になっている。平成 17 年度は 614 名の学生が駐車場を利用した。

②指定マンション「サンアベニュー森田」

自宅からの通学が困難な学生のために、本学学生のみが入居できるマンションとして、一つの民間マンションと指定マンション契約をしている。全部で 43 室あり、各部屋はバ

ス・トイレ付のワンルームタイプで、机やベッドなど家具が備え付けられている。費用は、周辺地域の家賃相場を考慮して検討している。平成 17 年度の入居学生は 36 名であった(平成 17 年 4 月 1 日現在)。

(5) 評価を受ける前年度の日本育英会等の外部奨学金の取得状況を記述。また当該短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述。

① 日本学生支援機構奨学金の取得状況

平成 17 年度は、下表のとおり総計で 118 人の学生が奨学金の貸与を受けた。申請者は全員が貸与を受けることができた。

〔日本学生支援機構奨学金の平成 17 年度の取得状況表〕

		取得状況	
新規	在学採用	1 種	16 人
		2 種	17 人
		緊急(1 種)	1 人
		応急(2 種)	1 人
	予約採用	1 種	12 人
		2 種	18 人
継続		1 種	22 人
		2 種	28 人
		併用	2 人
		緊急(1 種)	1 人

② 本学独自の奨学金

本学独自の奨学金として、以下の 3 つの奨学金制度を設けている。

(ア) 六葉奨学金

学業および人物に優れた学生に対して、学生生活の支援に資することを目的として給付する。

〔平成 17 年度状況〕 申請 20 名 給付 7 名

(イ) 応急奨学金

学資負担者の死亡、疾病、被災などにより学資負担が困難となった場合に、学業成績が優秀であり、修学継続の意見が強固と認められる学生に対し、学生生活を援助するために給付する。

〔平成 17 年度状況〕 申請 0 名 給付 0 名

(ウ) 課外活動等奨学金

学生または学生団体が、スポーツ活動、文化活動、特色ある活動等の各分野において秀でた成果を残した場合に給付する。

〔平成 17 年度状況〕 申請 31 件 給付 31 件

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示すこと。

①保健室

保健師資格をもつ保健主事 1 名が保健室に常駐し、学生の健康管理のため、＜定期健康診断＞、＜応急処置および健康相談＞、＜健康診断証明書の発行＞、＜学生教育研究災害傷害保険の事務＞といった支援を行っている。

②学生相談室

平成 17 年度は室長（学内教員）、保健主事、学外カウンセラー（臨床心理士・非常勤）で構成された。学外カウンセラーは、原則として週 1 回（金曜日）に相談を受け付けた。

③学生生活意識調査の分析

学生の教育・支援のためには学生理解は不可欠であるが、そのための参考資料とするために、本学では 6～7 年毎に学生の生活や意識に関する調査を行っている。平成 16 年度末に実施した調査について平成 17 年度に集計・分析を行い、報告書を教職員に配布した。

④緊急救急対応体制の整備

救急対応が必要な学生の事故が起きた際の早期対応や適切な処置により、事故の拡散と混乱を防止し、学生を援助して、医師又は保護者に対応を引き継ぐまでの行動を示した「緊急救急対応マニュアル」を作成し、各教室に整備している。また、年 1 回開催される教職員総合防災訓練において、全教職員が参加して、応急処置に関する講習等を受けている。平成 17 年度は新たに AED（自動体外式除細動器）を設置し、福井県普及啓発協議会の協力のもと、10 月 26 日に AED に関する講習（教職員対象）を行った。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているか記述。

個人情報保護法の施行に伴い学生の情報管理について、専任教員・兼任教員・事務職員への周知及び注意を喚起した。また、各部局において管理責任者・取扱責任者を決め、学生の個人情報の取り扱いには徹底した管理を行った。

4. 【進路支援について】

(1) まず就職状況表の例示を参考にして、過去 3 ヶ年の就職状況を学科等ごとに記載。また就職者一覧表等の印刷物があれば参考資料として準備。

[平成 17 年度～15 年度 生活科学学科の就職状況表]

	平成 17 年度	平成 16 年度	平成 15 年度
(a)卒業生数*	233 人	225 人	234 人
(b)就職希望者数 (割合(b)÷(a))	212 人(91.0%)	194 人(86.2%)	207 人(88.5%)
(c)うち学校で斡旋した就職者数 (割合(c)÷(b))	165 人(77.8%)	150 人(77.3%)	174 人(84.1%)
(d)うち自己開拓分の就職者数 (割合(d)÷(b))	47 人(22.2%)	44 人(22.7%)	33 人(15.9%)
(e)不明・無業者数 (割合(e)÷(a))	0 人(0.0%)	0 人(0.0%)	0 人(0.0%)

〔平成 17 年度～15 年度 幼児教育学科の就職状況表〕

	平成 17 年度	平成 16 年度	平成 15 年度
(a)卒業生数※	174 人	176 人	178 人
(b)就職希望者数 (割合(b)÷(a))	161 人(92.5%)	160 人(90.9%)	170 人(95.5%)
(c)うち学校で斡旋した就職者数 (割合(c)÷(b))	100 人(62.0%)	132 人(82.5%)	112 人(65.9%)
(d)うち自己開拓分の就職者数 (割合(d)÷(b))	61 人(37.9%)	28 人(17.5%)	58 人(34.1%)
(e)不明・無業者数 (割合(e)÷(a))	0 人(0.0%)	0 人(0.0%)	0 人(0.0%)

〔平成 17 年度～15 年度 音楽学科の就職状況表〕

	平成 17 年度	平成 16 年度	平成 15 年度
(a)卒業生数※	40 人	28 人	39 人
(b)就職希望者数 (割合(b)÷(a))	17 人(42.5%)	16 人(57.1%)	21 人(53.8%)
(c)うち学校で斡旋した就職者数 (割合(c)÷(b))	9 人(52.9%)	5 人(31.3%)	4 人(19.0%)
(d)うち自己開拓分の就職者数 (割合(d)÷(b))	8 人(47.1%)	11 人(68.8%)	17 人(81.0%)
(e)不明・無業者数 (割合(e)÷(a))	0 人(0.0%)	0 人(0.0%)	0 人(0.0%)

※ 卒業生数には、過年度での卒業生の数は含まず。

(2) 学生の就職を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述。

就職を希望する学生が、本人の希望や能力を十分生かせる職に就けるように、専門スタッフからなる就職指導課と、教員と事務職員からなる就職対策委員会という組織を置いて、全学体制で支援している。また、ライセンス支援委員会という組織もあり、学科・専攻にとらわれることなく、医療事務やホームヘルパー、販売士といった資格支援を、夏休み等の長期休暇を利用して実施している。

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているのかを記述。

就職資料室内の掲示板には、職種別に求人票を貼り、自由に学生が閲覧できるようになっている。さらに就職活動を支援するために以下の様々な資料を揃えている。

- ①過去 3 年間の県内外求人票、②先輩（卒業生）の業界別就職試験受験報告書、
- ③事業所ファイル、幼稚園・保育園ファイル、病院・介護等の施設ファイル、
- ④エントリーシート原本ファイル、⑤公務員採用試験関係資料、
- ⑥テレビデオ（面接試験やマナーのビデオ視聴用）、
- ⑦パソコン（求人検索・ホームページ閲覧用）、⑧就職試験関係図書、⑨住宅地図、
- ⑩四年制大学 3 年次編入ファイル、短期大学専攻科ファイル、専門・各種学校ファイル

(4) 過去 3 ヶ年の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているのかを記述。

<学長>

全体的には過去3ヶ年とも就職率は100%を達成しており、特に、免許資格を要する幼児教育関係、栄養士等のいわゆる専門職就職率も高く、当該地域における養成機関としての役割は、相当程度に果たしていると考えている。一方、事務系の就職は難しさを増しており、即戦力、厳選した人材確保が大きな流れの中にある社会情勢の中で、基礎的な教養、技能の向上のほか、コミュニケーション能力をはじめとする社会的適応能力を如何に育成していくかが大きな課題として考えている。

<生活科学学科長>

生活科学学科においては、専門職の就職率が順調に伸び維持して社会に受け入れられているものの安心できないと思っている。今、社会は、即戦力のある人材を求めていると認識している。学科としては、さらにしっかりした基盤を整備して臨まなければならないと思っている。

<幼児教育学科長>

幼児教育学科においては、保育士・幼稚園教諭の就職率が平成15年度89%、平成16年度93%、平成17年度89%と過去3年間、幼児教育専門職への就職がきわめて高率を維持している。それゆえ、学生も就職にあまり不安を抱かずに勉学に集中できているように思う。

<音楽学科長>

音楽学科では、全就職希望者17名の内11名、約65%が音楽講師や音楽療法士の資格を持っての福祉施設職員等の専門職に就職しているが、特に、音楽療法コース生の専門就職率は第I期生からこの春卒業の第IV期生までの平均が70%に達し、平成17年度も83%でまずまずである。全体としてこの2年ほどは、短大卒業時の専門職への就職率は下がり気味と言えるが、特に本学専攻科等進学後は、さらに2年間の学習を経て技術力を向上させ人間的にも豊かさを増すなど、資質を上げてほとんどが専門職に就いているので、特に心配はしていない。

(5) 過去3ヶ年の進学(4年制大学、専門学校等)及び海外留学の実績を示し、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述。

[平成17年度～15年度 生活科学学科の進学状況表]

学校名	平成17年度	平成16年度	平成15年度
仁愛女子短期大学 専攻科食物栄養専攻	8	5	5
仁愛女子短期大学 生活科学学科 食物栄養専攻	1	0	0
仁愛女子短期大学 幼児教育学科	1	0	0
仁愛大学 人間学部心理学科 3年次編入	0	1	0
仁愛大学 人間学部コミュニケーション学科 3年次編入	0	0	2
海外留学	0	4	0
専門学校	3	7	8
合計	13	17	15

〔平成 17 年度～15 年度 幼児教育学科の進学状況表〕

学校名	平成 17 年度	平成 16 年度	平成 15 年度
仁愛女子短期大学 科目等履修生	1	5	1
仁愛大学 人間学部心理学科 3 年次編入	7	2	0
金城大学短期大学部 専攻科福祉専攻	0	1	1
花園大学 社会福祉学部 3 年次編入	1	0	0
佛教大学 通信教育部	0	0	1
種智院大学 仏教学部	0	1	0
東海女子大学 3 年次編入	0	1	0
徳島文理大学 人間生活学部 3 年次編入	1	0	0
専門学校	1	2	1
海外留学	0	1	0
合計	11	13	4

〔平成 17 年度～15 年度 音楽学科の進学状況表〕

学校名	平成 17 年度	平成 16 年度	平成 15 年度
仁愛女子短期大学 専攻科音楽専攻	14	9	9
仁愛女子短期大学 音楽学科研究生	5	2	3
仁愛女子短期大学 幼児教育学科	2	0	0
くらしき作陽大学 音楽学部教育音楽科 3 年次編入	0	0	1
専門学校	1	0	0
合計	22	11	13

本学で学んだ知識をさらに深めるべく、本学の専攻科や同学園内の仁愛大学をはじめとする四年制大学に進学する学生も多い。各大学から送付されてきたパンフレット類を就職資料室にファイリングしており、各学校に関する情報提供を、学生の意向を尊重しながら実施している。

5. 【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去 3 ヶ年の留学生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はどのような方法、体制で行っているかを記述。

平成 17 年度留学生についての問い合わせは、1 件あったが出願には至らなかった。

平成 17 年度 0 名

平成 16 年度 0 名

平成 15 年度 0 名

(2) 過去 3 ヶ年のいわゆる社会人学生の受け入れ状況を示し、その学習支援をどのような方法、体制で行っているかを記述。

〔社会人の受け入れ状況〕

	生活科学学科	幼児教育学科	音楽学科
平成 17 年度	1 名	6 名	3 名
平成 16 年度	3 名	4 名	3 名
平成 15 年度	1 名	7 名	4 名

社会人入試制度があり、その制度を利用して入学した学生は上記人数である。「社会で役立つ資格が取りたい」「専門的な知識や技術を身につけたい」という意欲あふれる学生が入学し、ほとんどの学生は、免許・資格取得が目的なので、クラスアドバイザーが免許・資格に必要な科目の履修について細部にわたって指導に当たっている。また、短大卒以上の人には他大学で履修した授業科目を、教育上有益と認めるときは選択科目に限り 30 単位を超えない範囲で既修得単位として認定しているので、免許・資格関係科目の履修に力を入れることが出来る。平成 17 年度既修得単位認定の申請者は 5 名 30 単位であった。また、科目等履修生として 9 名を受け入れた。

(3) 過去 3 ヶ年の障害者の受け入れ状況を示し、その支援はどのような方法、体制で行っているかを記述。

平成 17 年度 1 名(科目等履修生)

平成 16 年度 0 名

平成 15 年度 0 名

本学の障害者用施設設備は年々整備されてきているが、まだ完全に整備されていないため、受け入れは現状設備での学生生活が可能で障害までとなる。平成 17 年度は科目等履修生として 1 名を受け入れ、学生の協力・介助者・職員の補助により週 1 回の受講を支援した。

(4) 過去 3 ヶ年の長期履修生の受け入れ状況を記述し、その学習支援、生活支援はどのような方法、体制で行っているかを記述。

現在、本学においては長期履修生制度の規程はない。長期履修生を受け入れるため、他大学の学則等の資料を収集中である。

6. 【特記事項について】

(1) この《V 学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述。

①成績不振者への支援

成績不振の学生には、期末試験終了後に必修科目不可が 1 つ以上、選択・必修科目あわせて不可が 3 つ以上ある者を対象に保護者宛に成績と書面を送付し、目的意識をもって卒業を目指すよう家庭での話し合いを求めている。平成 16 年度末には 6 名の成績不振者がいたが、本人の努力と学科・クラスアドバイザー、学生部の支援により 2 ヶ年で卒業した。

②長期欠席者に対する援助

欠席が 2～3 回になるとクラスアドバイザーより保護者・本人に連絡をとり、長期欠席にならないよう指導助言している。さらに、長期欠席・欠席多数により期末試験を受験できなかった者については、本人・保護者ともに本学に来学してもらい、クラスアドバイザー一同席のもと学生部長より今後のことについて確認し、また激励している。

③学生に対する表彰制度

学則第 56 条に「学生として表彰に値する行為があった者は、教授会の議を経て学長が表彰する」との条文があり、学生に対する表彰制度は確立している。また、学業および人物に優れた学生に対して奨学金を給付し学長より表彰する六葉奨学金(平成 17 年度 7 名給付)や、スポーツ活動・文化活動・特色ある活動等の各分野において秀でた成果を残した学生または学生団体に奨学金を給付し学長より表彰する課外活動等奨学金(平成 17 年度 31 件給付)の 2 つの制度がある。

また、学長の許可のもと、生活科学学科では、生活情報専攻において全国大学実務教育協会会長賞(情報処理士、ビジネス実務士)を、食物栄養専攻において全国栄養士養成施設協会会長賞を、調理科学専攻及び食物栄養専攻において日本フードスペシャリスト協会会長賞を、幼児教育学科では全国保育士養成協議会会長賞を卒業式時に授与している。

なお、生活科学学科では、学業優秀者や各種コンクール、制作展などの優秀者に学科褒賞を学科会議で選出して授与している。その内訳は 1 回生奨励賞 10 名、2 回生学科賞 10 名、2 回生努力賞 10 名を原則にして授与している。

④学生の自己目標の設定・評価

本学では、入学時に冊子「充実した学生生活を送るために—自己目標の設定と自己評価の手引き—」を学生に配布し、各学期の始めに自己目標を設定させ、学期末にその評価をさせ、それをアドバイザーが学生指導の資料として活用している。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点を求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述。

特になし。